

充実の2週間 サヨナラ熊本

阿蘇観光を楽しむコンケン大の交換研修生たち



タイ・コンケン大学からの交換研修生6人が2週間の研修期間を終え15日（土）、無事帰国しました。

本学の学生、教職員との交流は3日（月）のウェルカムパーティーでスタート。研修生は期間中、熊本医療センターやKMバイオロジクスなどの5施設を見学し、本学では各学科の講義や実習などに参加。本年度は基礎セミナーにも参加し、本学の学生と「おにぎらず」や「折り紙」など日本ならではの体験も行いました。

また、休日には教職員やサポート学生たちと阿蘇や熊本城などの観光を楽しみました。平日の午前中はサポート学生たちと日本語を学んだり、英語の講義に参加したりと休む間もなく活動。昼は学生たちとレストランで食事を共にしました。レストランでの一番人気は「かつ丼」。一味唐辛子をたっぷりとかけ、真っ赤に染まったかつ丼を美味しそうに頬張っていました。

14日（金）にあったさよならパーティーとプレゼン発表では、研修生たちが2週間の研修を振り返りました。プレゼンテーションの最後には、コンケン大学伝統のダンスを披露し、会場を沸かせました。（入試・広報課）

※本学からは9月7～20日、6人の学生がコンケン大学を訪問します。

コンケン大交換研修生

授業参加、

文化体験：深めた交流



土井篤教授の研究室で顕微鏡をのぞき込む研修生



さよならパーティーの会場を沸かせた研修生たちのダンス



熊本市内観光では、浴衣も体験

さよならパーティー後、記念撮影する研修生と学生、教職員



本年度の学友会会長に内田拓斗さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年）が就任して1カ月がたちました。「今のところ順調な滑り出し」と語る内田さんに話を聞きました。（NL編集部）



「どんどん活動に参加してほしい」と話す内田さん

みんなで作り上げる活動目指す

—学友会会長となって1カ月がたちました。

内田：今日まで新入生歓迎バーベキューや球技大会を企画してきました。大変だけど、みんなが楽しそうな姿を見ると、やってよかったと思います。まずは順調な滑り出しといったところです。

—会長は希望していた？

内田：去年の杏祭で副実行委員長を務めていて、そこから先輩方に声をかけてもらいました。杏祭は一昨年、3年ぶりに復活したんですけど、昨年、学友会副会長、副実行委員長をやる中で、「もっとやれるんじゃないか」「もっと変えたい」という気持ちがあって、それが会長（就任）につながりました。

—1年間の任期の中で、特に力をいれたいことは？

内田：もちろん、一番は杏祭の成功。私自身は実習と重なり参加できませんが、これまでの蓄積をきちんと引継ぎ、後輩にいい杏祭をつくってほしいという思いを託します。会の活動に関しては、これまで上の人だけが頑張っているという印象がありました。これを、全員が参加して、みんなで作り上げるような活動にしていきたいですね。

—内田さんにとって、学友会とはどんな存在？

内田：部活みたいな感じで友達と一緒に何かを計画したり、作ったりという交流の場。また、先生や企業などとかかわる社会経験の場でもあると思います。現在、執行部が約30人で、運営部が約200人。どんどん活動に参加してほしいと思います。

ことばの相談室

学習・教育支援で西里小と連携

年度初めの児童の様子は？ 継続的に情報交換

ことばの相談室のメンバーが11日（火）、西里小学校を訪問し、同小教諭らと情報交換を行いました。相談室が展開する地域子ども支援の一環で、現在、西里小とは学習・教育支援で連携しています。

この日訪問したのは、井崎基博教授、仙波梨沙准教授、筆者（松尾朗講師）の3人。新年度が始まり、学校生活に慣れてきたこの時期に訪問することで、担任教諭の学級運営や学習面での気づき、困り感を具体的に話してもらうことができました。また、私たちも言語聴覚士（ST）や作業療法士（OT）の視点から学級担任との情報共有や連携の方法を明確にすることができました。

先生方とは引き続き情報共有や連携を図っていきながら、児童のより良い学校生活、学級担任の先生方の学級運営に少しでも力になればと思っています。次回は9月に訪問予定です。これからも、定期的な情報共有と連携を図りながら、地域

の子ども支援に努めていければと考えています。（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻 松尾朗）



井崎教授（中央）と情報を交換する西里小の教員たち

運動イメージにおける個人差の発生機序の解明と個人特性に合わせたVR介入の検討

個人に合わせた効果的リハビリ選択を可能に

「運動イメージ」とは、何らかの運動を自分が行っているかの様に頭の中に思い浮かべることで、イメージの内容はスポーツから階段を上る場面など多岐にわたります。私たちの日常生活動作は、この運動イメージによってスムーズに行われていると考えられており、近年ではリハビリテーション（リハビリ）においても運動イメージを用いた介入が積極的に行われています。特にバーチャル・リアリティ（VR）を用いた運動イメージのリハビリは、脳卒中既往者やフレイル高齢者の回復を促進する手段として注目されていますが、その全容は明らかになって

いません。

私たちは、これまで高齢者や脳卒中既往者における運動イメージの個人差の神経基盤（脳活動）とその発生機序について、実験心理学的な手法を用いて明らかにしてきました。この知見を基に、現在は助成いただいた科研費で、VRを用いた運動イメージ介入の効果と個人差を明らかにする研究に着手しています。これらの研究により、将来的にはリハビリ対象者の個人の状況に合わせた、より効果的なVR運動イメージ介入の方法が選択可能となることが期待されます。

科研費 ★★
私の研究

若手研究
2023-26年

リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻

小手川 耕平 講師



銀杏アラカルト

■高校教員向け進路指導者説明会 県内高校を中心とした進路指導者説明会を20日（木）、本学1300L講義室で開催し、46校、計51人の参加がありました。第1部では、竹屋元裕学長が大学概要、竹永和典入学試験委員長が令和7年度入試について詳しく説明。第2部では、学部・大学院生の3人が「研究支援」「実習や就職活動」「学生生活やDive! LSP」をテーマにキャンパスライフを語りました。大学院2年の金井大慈朗さんは、本学を目指した理由や現在の研究、看護学科4年の小倉幸希さんは実習での学びや就職活動の経験、言語聴覚学専攻4年の福田遥香さんは学生生活やDive! LSPの活動について話しました。（入試・広報課）

46高校、51人が参加した進路指導者説明会の会場



インフォメーション

週間行事予定（6月25日～7月1日）

6/25（火）	交通安全講習会（12:15～ 50周年記念館）
6/26（水）	インカレ社行会（12:30～ 50周年記念館）